

画像工学同窓会会報

同窓会会長に就任して

平成17・18年度画像工学同窓会会長

昭和50年修了 前原東二



1975年3月に大学を巣立って、早や30年の年月が過ぎ去りました。1968年の入学で、7年間の在学中の日本は、ニクソンショックや、オイルショックなど

一時的なエアポケットはあったものの、経済成長の真只中でした。私自身の学生生活を振り返りますと、成績不良、積極性のない学生の代表みたいなもので、研究室選択の面談で入江春雄教授から「君は私の厳しい研究室で大丈夫かね」と言われたことを今でもはつきりと覚えています。S社研究室に勤務したものの、1年半で退職。その後公認会計士への道を選びましたが、その行動規範となっているのは、入江先生の教えであります。

さて、現在の日本を見ますと、少子高齢化、フリーター、ニート問題など多くの難題をかかえ、国家をはじめ一般企業まで今まで以上に大きな構造変革が求められています。増大する社

会保障費支出、一般歳入に占める税収入の低さは増税路線を余儀なくさせています。国民生活が安定的であるためには、国はもちろん大企業のみならず中小企業の経営が健全なものでなければなりません。技術革新、経営革新が常に求められています。すでに社会進出された諸先輩の方々や後輩の方々、毎日それとの戦いであると推察致します。在学中の学生諸君は社会進出する際、そういう意識を是非持っていただきたいと思えます。大学は社会的存在であり、地域に対する影響力も多大です。ドロップアウトした私ごときが同窓会会長をお引き受けすることになりましたが、在任中は大学の先生方と協力して、同窓会として何らかの足跡を残すことができると考えています。会員の皆様方のご支援を心からお願い致します。

画像工学同窓会第6回技術講演会のお知らせ

総会の前の時間に下記の技術講演会を開催します。今年度は例年の卒業生による技術講演会とは趣向を変えて、写真家ジャーナリストの長倉洋海氏に講演をお願いしました。是非、お誘い合わせの上、ご参加下さい。昨年度と同様に今年度もPAGE2006の開催時に同じ場所に講演会を開催することにしました。機材展に参加と同時に技術講演会に参加頂けますようご案内申し上げます。なお、ご参加の有無を同封の振込み用紙に記入の上ご送付下さい。

記

日時：2006年2月2日(木)15:30～17:00
テーマ：
場所：サンシャインシティ文化会館704・705会議室
参加費：無料

講演「写真家・長倉洋海の出会った人と風景」

長倉 洋海 写真家ジャーナリスト
<http://www.h-nagakura.net/>

PAGE2006の情報 <http://www.jagat.or.jp/page/index.htm>

総会・懇親会のお知らせ

平成17年度の定時総会および懇親会を下記のように開催致します。今回も昨年度と同様に多くの方に参加頂けるようPAGE2006の開催と合わせて総会および懇親会を開催致します。是非、皆様お誘い合わせの上、ご出席下さいませようご案内申し上げます。

記

開催日：2006年2月2日(木)
総会：17:00～17:30
場所：サンシャインシティ文化会館706会議室
議題：平成16年度事業報告、会計報告
平成17年度事業計画、予算案

懇親会：17:30～19:30
場所：サンシャインシティ文化会館704・705会議室
会費：8,000円 当日お支払いください。

出席される方は、同封の振込み用紙の出欠欄にご記入の上、1月20日(金)頃までに到着するようにお早めにお申込み下さい。

サンシャインシティコンベンションセンターTOKYO
〒170-8630 東京都豊島区東池袋三丁目1番1号
交通：池袋駅東口から徒歩8分
東池袋駅(地下鉄有楽町線)2番出口から徒歩3分
<http://www.sunshinecity.co.jp/information/access.html>

学科の近況

学科長 長谷川 朗

学科の近況をお知らせ致します。ここ数年にわたって同窓会々報等でお知らせしていますように、学科のカリキュラムと学科組織が大幅に改定されました。これらの新しい体制で現在2年次まで進行しています。3・4年生も学生実験や卒業研究の研究室配属の方法等において新しい体制を適用しています。新しい体制を要約すると次のようになります。まずカリキュラムでは、従来、情報工学コース、画像材料工学コース、画像システム工学コースの3専門コースの内1コースを選択して履修する方式であったものが、いわば「情報画像工学コース」に1本化されました。必修専門科目は、情報画像工学概論、基礎物理化学、情報画像とマテリアル、フーリエ変換と画像、計算機システム入門、情報数学、振動と波動、光物性基礎、光学、画像システム論、プログラムの設計と

実現、画像作り実習、情報画像工学実験・・・、および卒業研究となっています。一方、学科組織は、基礎情報工学、応用情報工学、画像材料工学、および画像システム工学の4講座編成であったものが、情報画像基盤工学、情報画像プロセス工学、および情報画像人間工学の3講座となり、各講座には従来の情報、材料、システムの研究室が混在しています。

以上のように、カリキュラムのみならず学科組織も「画像工学」のくくりはなくなりました。画像工学分野を担当する教育研究分野が情報画像工学科の中に散在するような形で従来の画像工学科の面影を残しているに過ぎません。画像工学同窓会会員の皆様にとっては少し寂しい思いをされるかと思えます。

一方、大学院の改組について検討が始まっています。主として理学部、工学部、園芸学部の教員で組織されている自然科学研究科の博士前期課程、博士後期課程そして学部の間関係が基本から問い直されようと

しています。大学院、学部を通してのカリキュラムの見直しや教員の配置等も当然検討課題になっています。画像工学を担う人材の養成は学科から大学院へと移行するのかもしれませんが。

最後になりましたが、学科教職員の動向をお知らせします。

石井千明先生が平成17年3月31日に辞職され、独立行政法人産業技術総合研究所固体高分子形燃料電池先端基盤研究センターへ移られました。その後任として、平成18年4月には視覚情報工学教育研究分野に新任の助手をお迎えする予定となっています。

故遠山政夫先生の後任には、平成17年1月1日付けで印刷実験工場に新任の小林誠一技術職員を迎えました。

なお、平成16年4月にメディカルシステム工学科に転出された塩入諭先生は、平成17年2月28日に辞職、東北大学電気通信研究所へと移られました。

卒業生・修了生の就職先紹介

Graduate

2005年3月に巣立った卒業生・修了生の就職先を紹介いたします。今後とも、諸先輩方の温かいご支援をお願いいたします。

大学院修士生の進路

イマジカ、東洋合成、半導体エネルギー研究所、日本ミシュランタイヤ、タムラ化研、東芝テック、住友スリーエム、凸版印刷(3)富士ゼロックス、ブラザー工業、フライングモール、村田製作所、セイコーエプソン、大日本印刷、トッパン・フォームズ、フジノン(3)キヤノン、日本ビクター、DENSO、インテリジェントウェイブ、ナック・イメージ・テクノロジー、資生堂、NEC、リコー、カシオ計算機、日立メディコ、ブリヂストン、読売新聞社、NTT東日本、野村総合研究所、国立印刷局、シャープ(2)、日立メディコ、富士通コンピュータテクノロジーズ、NHK、

セイコーエプソン、日本ビクター、フルキャストテクノロジー、大日本印刷、国立印刷局、TRYWARP、留年

画像系卒業生の進路

NTTデータ、INAX、KAPPE、NTTデータフィット、エヌ・ティ・ティ システム開発、キヤノン、共同印刷、コナミ、静岡県警、シャープ(2)ジョルダン、大日本印刷、千葉銀行、トッパン・フォームズ(2)三田絵画研究所、NOVA、アイ・ティ・フロンティア、朝日広告社、クレステック、東通、千葉大学大学院(61)千葉大学大学院自然科学研究科デザイン専攻、東京大学大学院総合文化研究科

研究室紹介

小寺・堀内研究室

本研究室の教育研究分野は「知的画像処理工学」であり、小寺宏暉教授、堀内隆彦助教授、斎藤了一技官のもとで、

本年度は26名の学生が研究を行っています。人に快適なデジタル画像処理をテーマとして、色変換、色再現、色域写像、レンジ圧縮、符号化、検索、認識、領域分割、鮮鋭化、ハーフトーニングなどの要素技術から、静止画、動画に応用した具体的

なアプリケーションに至るまで、視覚特性を考慮したモデルや色空間を利用した研究を進めています。その中から、ホットな話題となっている研究成果を2つ紹介します。

(1) シーン色交換

2枚の画像のもつ「色合い」を交換する処理を、シーン色交換と呼んでいます。従来、画像全体の色合いをまとめて扱う方法が提案されていましたが、クラスタリングされた色集合ごとに交換する方法を提案することによって、精度よくシーン色変換することが可能となりました。図1は、夕方の景色の写真に対して、別の昼間の写真

を入力してシーン色交換処理をすることによって、昼間の景色をシミュレーションした結果を示しています。このような景観シミュレーションの他に、照明の影響によって色合いに失敗した画像と所望の色合いを持つ画像の色を交換することによって、色合いを修正することなどが可能となります。



(a) 夕方の画像



(b) 昼間の写真



(c) (b)の色合いとなった(a)

図1 シーン色交換の例

(2) モノクロ映像のカラリゼーション

マルチメディア技術の発展とともに、街中には色鮮やかなカラー映像が溢れています。しかしながら、過去にモノクロ信号として記録されたり、記録危機等の制約によって、昨今でもモノクロ信号として記録される映像も数多く存在しています。これらのモノクロ映像に対して、わずかな色情報を与えることによって、映像全体を自動着色する処理をカラリゼーションと呼んでいます。本

研究室では、種画素と呼ばれる数点のカラー画素を散布することによって、画像全体を精度よく着色する方法を開発しました。図2は、赤丸の部分に8点の画素を散布することによって着色した例です。現在は、動画像への拡張や、画像符号化への応用に取り組んでおり、考古資料の色再現や、アミューズメント分野での応用が期待されています。



(a) モノクロ画像と種画素位置(8点)



(b) 着色結果

図2 カラリゼーションの例

研究室紹介

小林範久研究室

小林範久教授と田中豊英技術専門官からなるスタッフに、今年度はM2(西村、西山)、M1(西岡、馬、三浦)、B4(木村、永島、西澤、山田)と(なぜか)人数の割には「西」の付く字が多い学生から成り、社会に貢献できる人材の育成と世の中にアピールできる研究の達成を目指し、少ないながらも「山椒は小粒…」的発想で努力しています(実際には分子量46の液体を緩衝材として、スタッフと学生が分け隔てなく好き勝手に言合っているだけかもしれませんが…)。研究内容は基本的には材料を扱っていますが、学科を志向する学生の気質もあり、化学一辺倒にならないよう(一応?)注意を払っています。

内容は、情報の入力や出力で活躍する表示・記録素子や光電機能デバイスが次世代にはどのような方向に進み、またどのような材料系が必要かを議論し、その実現に役立つ高次機能を有するナノレベルの組織体や全く新しい材料系を開発しています。さらには、それら

が実際にデバイスとして機能するかも検証して、将来的な可能性を学生と議論しています。現在重点をおいている具体的なテーマは、

1) 光電機能高次ナノ組織体の創成と情報デバイスへの展開

DNA等構造規則性高分子や電気を流す高分子、光機能分子がナノレベルで複合された新規な高次組織体を構築し、電圧により発光色が変わる発光デバイスなどに応用しています(図1)。(なぜDNAかと思われるかもしれませんが、これが結構おもしろいです!!)

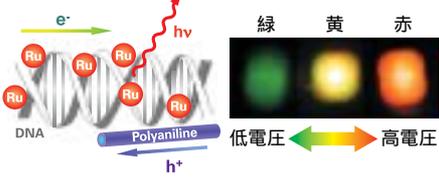


図1 「生命」情報材料DNAで「像」を情報

2) 電気化学反応を利用したフルカラー電子ペーパーの開発

フルカラー対応電子ペーパーの実現を目指し、電極反応により透明から3原色に可逆的に変化する材料を開発しています(図2で

は左からY, M, Cです)。デバイス化を通し社会的なニーズに対応できる系の開発を目指しています(図2、カラーでお見せできないのが残念ですが、色自体はほんとに〜って言うほどきれいです。詳しくはHPでどうぞ)。



図2 電気化学反応を用いた表示素子

3) 次世代エネルギー素子や分子デバイス開発のための新規な液晶材料や薄膜系の創成

その他、種々の機能性高分子&材料に関する産学の交流を積極的に行っています。ご興味がありましたらお気軽にお声がけ下さい。

最近の報道・受賞等

- 1) 英国学会誌の表紙に採用(H13.7)
 - 2) 日本経済新聞、日経産業新聞(H14.7)
 - 3) FPD専門誌の表紙(H16.7 & H17.1)
 - 4) 日経産業新聞(H17.1)
 - 5) KJF2002国際会議にて受賞(学生H14)
 - 6) ISPE9国際会議特別講演賞(H16)
 - 7) IDW04国際会議にて受賞(学生H16)
 - 8) 電気化学会論文賞(H17)
- (<http://photo-m.tp.chiba-u.jp/i-poly/>)

研究室紹介

小関研究室

2004年4月に教育研究分野名が「印刷材料」から「電子光情報マテリアル工学」に変更になりました。研究室のメンバーは、博士1名、修士7名および学部7名からなり、主に次の5テーマに関する研究に取り組んでいます。

ホログラム記録: 次世代超高密度メモリーをターゲットとした材料開発を行っており、カチオン重合系フォトポリマーを用いたホログラム記録に関しては、2005年度の日本印刷学会論文賞を受賞しました。

インクジェットプリンティング: 電子分野への応用に絞り、紫外線硬化型ジェットインク的设计・開発を行っています。共同研究の成果として開発したインクは、既に基板に印字

する実機で使われています。またUVジェットインクの吐出評価装置の整備を進め、飛翔状態の観察なども行えるようになっていきます。

フォトポリマー材料: 分速1500m以上のスピードで生産される、光ファイバーを保護するための被覆材料として用いられているフォトポリマーの材料設計を行い、力学物性ととの関係について研究を進めている。



液晶ディスプレイ: フォトポリマーによりセル内に液晶分子の配向を制御するための壁を形成することにより、動画表示に対応できるOCBモード液晶セルを作製し、ディスプレイとしての性能を評価しています。

印刷インキ材料: UV硬化型フレキシソインキのレオロジー特性と印刷適性との関係を明らかにし、より高精細で高品質なフレキシ印刷を可能にするための基礎研究を行っています。

産学の共同研究などが増えるとともに、従来共同研究先に任せていた特許出願も、大学が主体となって積極的に進めております。学部生6人は大学院へ進学するので、よりいっそう活発な研究活動を進めていきたいと思っています。共同研究などについては、気兼ねなくお問い合わせ下さい。

(koseki@faculty.chiba-u.jp)

研究室紹介

星野研究室

微細画像プロセス工学教育研究分野星野研究室の方針は、“欧米に追随することなく、ただ欧米にもアピールできる研究”を目指しています。世界のどこにもないナノ構造材料を作る、世界で初めての製法でナノ材料を作る、そして世界で解決されていない難問に挑むことを通して情報画像技術につながる画像素子・エネルギー変換素子の構築を行い、学生諸君の知る“欲求”や“意欲”を高めることを目標にしています。以下に具体的テーマについての概略を述べさせていただきます。

(1) 常温・常圧、水溶液中でのコバルトナノワイヤーの一段階大量合成

世界で最も簡便・安価・高生産性・エコフレンドリーな金属ナノワイヤー合成反応・技術を見出しました(図1)。現在、FED用の電子放出源、プローブ顕微鏡の探針、二次電池などへの応用を目指した研究に取り組んでいます。(日刊工業新聞2005.10/25版第1面)



図1 コバルトナノワイヤー集合体の電子顕微鏡像

(2) 空中窒素固定

酸化チタン/導電性ポリマー接合素子に太陽光を照射すると、空中窒素が、固体燃料あるいは肥料として知られるアンモニウム塩に変換される新規な空中窒素固定反応・システムを見出しました(図2)空中窒素固定反応は、光合成に次ぐ重要な反応であり、

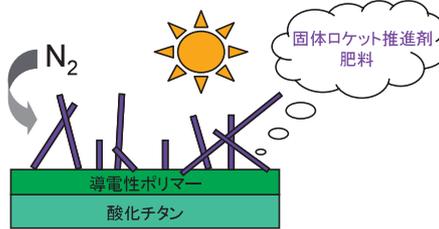


図2 新規空中窒素固定システム (太陽エネルギー-化学エネルギー変換システム)

持続的な人工窒素固定法を開拓することが人類存亡に課せられた課題ですが、その決定打は未だ出ていません。当研究室で開発した反応・システムがその決定打となるよう努力を続けています。(Nature Web 2000年7月19日版、英国一般新聞 The Guardian 2000年8月3日版、米国 Chemical & Engineering News 2000年7月17日版など)

(3) 有機/無機ナノ界面制御

有機物と無機物は互いに水と油の関係にあり、大変相性の悪い組み合わせです。しかし、この2つを組み合わせるといろいろ面白い働きをすることがわかってきました。当研究室では、この2つを本当の意味で接合させる(化学結合でつなぎ合わせる)という研究を行っています。単に2つの材料を張り合わせただけ(接触、図3)では、非常に性能の悪いダイオードしかできませんが、張り合わせた後、特別な処理を施しますと、無機物だけで作ったダイオードとまではいきませんが、非常に高性能のダイオードができあがることを見つけました(接合、図3)。そして、有機物を用いたダイオードとしては、その特



図3 有機/無機接触と接合

性が世界のトップデータを記録することがわかりました。今後は、“張り合わせる工夫”を更に工夫し、無機物半導体に負けない更に高性能の電子デバイスを開発していきたいと思っています。(化学工業日報、1998年8月10日版)

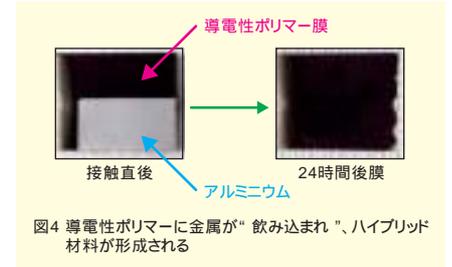


図4 導電性ポリマーに金属が“飲み込まれ”、ハイブリッド材料が形成される

(4) 有機-無機ハイブリッド材料の創製

有機物質と無機物質はそれぞれ特有の性質を持っており、たいいていの場合、別々の用途で用いられています。無機物質と有機物質は、いわば水と油の関係にあり、“あいっこ”を作るのが大変困難です。私たちは、この“あいっこ”をつくる新しい方法を発見し、元の有機物質や無機物質の欠点をあきらめ、あるいは元の物質にはない新しい性質を引き出す研究を行っています。具体的には、導電性ポリマーにアルミニウムなどの金属を接触させると、これらの金属がまるで導電性ポリマーに飲み込まれるように消えてしまい、繰り返し使用耐久性に優れたハイブリッド材料となるとい研究です(図4)。

以上の他にも当研究室では、「新規マイゼンハイマー錯体の合成と物性」、「特異ナノポーラス構造を持つ有機太陽電池」、「静電気現象の本質に迫る」、「超原子価錯体の物性」などのテーマがありますが、詳細については下記、研究室ホームページをご参照ください。(http://eimage.tp.chiba-u.ac.jp/hoshino/index.html)

同窓会からのお知らせ

2004年度(平成16年度)事業報告

2004年 3月30日(水)幹事会:アルカディア市ヶ谷
 2004年 7月10日(土)関西支部総会・懇親会:キエフ(京都)
 2004年11月19日(金)産学技術交流会:千葉大学内自然化学研究科新棟
 2004年12月 会報第7号の発行
 2005年 2月 3日(木)技術講演会:PAGE2005会場内
 講演者:犬養俊輔、勝田勇生、小寺宏暉各氏
 2005年 2月 3日(木)第8回定時総会・懇親会:PAGE2005会場内
 2005年 3月23日(水)卒業生を励ます会:千葉大学内大学会館

2005年度(平成17年度)事業計画

2005年 7月16日(土)関西支部総会・懇親会:東洋ホテル(大阪)
 2005年 7月25日(月)幹事会:千葉大学
 2005年12月 会報第8号の発行
 2006年 2月 2日(木)第9回定時総会・懇親会:PAGE2006会場内
 2006年 2月 2日(木)技術講演会:PAGE2006会場内
 講演者:長倉洋海氏
 2006年 3月23日(木)卒業生を励ます会:千葉大学内大学会館

役員(平成17・18年度)

会長 前原東二(前原公認会計事務所)
 副会長 北村孝司(千葉大)、犬養俊輔(帆風)
 幹事長 小林裕幸(千葉大)
 副幹事長 豊田芳州、湯本好英、小関健一
 会計監査 正田章、大沢慎一
 幹事 庶務: 斎藤了一、新納由美子、横沢佑治、星野和夫
 会計: 矢口博久、中村佐紀子
 編集: 岩崎賢太郎、岩崎弥平次、中村幹、柴史之、海野元弘、大森和志
 名簿管理: 青木直和、相良頼巳
 関西支部: 滝田進弘、戸田文夫、花畑雅之
 (印は責任者)

画像工学同窓会 2004年度(平成16年)度会計報告案

平成16年4月1日～平成17年3月31日

収入の部

内訳	予算	決算	差額
前年度繰越金	8,734,823	8,734,823	0
総会会費	170,000	360,000	190,000
年会費・寄付	1,000,000	1,180,680	180,680
工学部同窓会より活動費	100,000	103,333	3,333
利息	800	4,493	3,693
小計	1,270,800	1,648,506	377,706
合計	10,005,623	10,383,329	347,469

支出の部

内訳	予算	決算	差額
委員会費	70,000	68,800	-1,200
新卒者を励ます会	170,000	170,000	0
総会経費	300,000	253,942	-46,058
通信費	650,000	616,998	-33,002
会誌編集発行費	350,000	332,850	-17,150
活動費(情報画像産業技術交流)	200,000	106,000	-94,000
支部活動推進費	100,000	100,000	0
雑費	10,000	0	-10,000
慶弔費	30,000	41,500	11,500
小計	1,880,000	1,690,090	-189,910
次年度繰越金	8,125,623	8,693,239	567,616
合計	10,005,623	10,383,329	377,706

次年度繰越金(平成16年度残高)内訳

定期預金(千葉銀行)	7,003,680
普通預金(千葉銀行)	94,376
郵便振替	1,560,770
現金	34,413
合計	8,693,239

平成16年度の収支決算について 関係書類を厳正に調査した結果、適正であると認める。

平成17年7月25日
 会計監査役

画像工学同窓会ホームページ

<http://image.tp.chiba-u.ac.jp/alumni/>



from Editor

...編集担当から

「会員便り」の原稿募集

「千葉大学・画像工学同窓会会報」は8号となりました。次号も来年、次回の総会約1ヶ月前に発行予定です。本会報では次号の発行に向けて、皆様からの原稿を募集しております。会員の皆様の同期会や近況報告、職場での集まりなどの様子を誌面の許す限り掲載していきたいと思っております。下記宛先まで、お名前、卒業年をご明記の上、お送りください。多数のご投稿お待ちしております。なお、お送りいただいた原稿・写真等は返却できませんので、予めご了承ください。また、掲載につきましては、編集担当にご一任くださいますようお願い申し上げます。

千葉大学画像工学同窓会
 〒263-8522 千葉市稲毛区弥生町1-33 千葉大学工学部情報画像工学科内
 ☐0001@faculty.chiba-u.jp 編集担当:岩崎

同窓会からのお知らせ

平成16年度に、下記の皆様よりご寄付を戴きました。厚く御礼申し上げます。

- 【10口】井下広(昭和15年)・永谷宗次(昭和22年)・小川圭一(昭和33年)・村田憲治(昭和46年)
- 【9口】小門宏(旧教職員)・前原東二(昭和50年)・郭國泰(平成1年)
- 【8口】柿倉功児(平成1年)
- 【5口】田島又一(昭和16年)・青山徹雄(昭和36年)・正田章(昭和39年)・樋口武(昭和42年)・緑川洋行(昭和42年)・加藤俊造(昭和48年)
- 【4口】水澤伸也(旧教職員)・山本芳正(昭和31年)・土屋元彦(昭和33年)・田中尚安(昭和33年)・岩田克彦(昭和36年)・岩井龍三(昭和36年)・北島忠(昭和39年)・沼野博文(昭和39年)・山田稔男(昭和43年)・碓洋二(昭和45年)・垣本俊朗(昭和47年)・早川忠雄(昭和51年)・小林克彦(昭和55年)・鈴木英夫(昭和58年)・杉本和俊(昭和63年)・村田靖彦(平成9年)
- 【3口】岩瀬一美(昭和32年)・山田溪(昭和33年)・山本和彦(昭和34年)・井沢清(昭和36年)・池田カツヤ(昭和37年)・三浦英徳(昭和39年)・大野隆司(昭和40年)・横山喬(昭和40年)・金子茂(昭和47年)・末光尚志(昭和53年)・岡村清孝(昭和54年)・平賀祐二(昭和55年)・田口正規(昭和58年)・平野幸和(昭和34年)・中村勝利(昭和60年)・山本衛(平成7年)・横手俊倫(平成15年)
- 【2口】久保宏子(旧教職員年)・広橋亮(旧教職員年)・戸村久義(昭和16年)・山口豊(昭和17年)・土方英彦(昭和17年)・木内豊彦(昭和18年)・山本隆太郎(昭和18年)・佐山享豊(昭和20年)・江越壽雄(昭和22年)・蛭海進(昭和22年)・児玉庄晴(昭和22年)・鈴木元治(昭和22年)・味岡義久(昭和22年)・宮本勇(昭和22年)・山根節雄(昭和23年)・奥貴信(昭和24年)・栗原一成(昭和24年)・日高芳典(昭和24年)・亀岡勇(昭和25年)・川又健一(昭和25年)・熊川孝(昭和25年)・久保走一(昭和26年)・関根慶治郎(昭和26年)・浅沼宏(昭和28年)・木村敏男(昭和29年)・藤田互(昭和30年)・長谷川泰政(昭和30年)・金子福松(昭和31年)・鈴木章方(昭和32年)・清水伸一(昭和32年)・三位信夫(昭和33年)・味岡義久(昭和34年)・小野正和(昭和34年)・三浦祥司(昭和35年)・森島毅(昭和35年)・手塚純夫(昭和36年)・溝口陸生(昭和36年)・新居忠夫(昭和38年)・上田譲人(昭和39年)・日比野繁雄(昭和39年)・藤橋三千男(昭和39年)・川口勇(昭和39年)・福本力(昭和40年)・山崎孝(昭和41年)・廻谷勝三(昭和41年)・加藤秀雄(昭和42年)・斉藤光範(昭和42年)・馬場信幸(昭和42年)・石津洋介(昭和42年)・木村太郎(昭和42年)・熊坂建吾(昭和42年)・鈴木孝雄(昭和43年)・斉藤延夫(昭和45年)・真塩允久(昭和45年)・阿部敬一(昭和45年)・高宮弘房(昭和45年)・白鳥真太郎(昭和46年)・佐々木孝(昭和46年)・池田正雄(昭和48年)・船戸広義(昭和48年)・伊東郁男(昭和48年)・山田秀夫(昭和48年)・加藤信行(昭和49年)・鈴木進(昭和49年)・足立純一(昭和50年)・山本真理(昭和50年)・秋葉齊(昭和51年)・湯本好英(昭和51年)・芝木儀夫(昭和54年)・仙波季長(昭和55年)・山本雅夫(昭和55年)・岡本実(昭和56年)・浅井禎和(昭和57年)・大澤郁夫(昭和57年)・小宅光行(昭和60年)・澤田好和(昭和60年)・関谷建作(平成4年)・金子徹(平成5年)・玉井奈津子(平成9年)・片平幸美(平成11年)・高橋大介(平成16年)
- 【1口】松島義昭(昭和13年)・豊福潤也(昭和16年)・倉田宏(昭和18年)・土田慶仲(昭和18年)・小田中真一郎(昭和23年)・清水豊(昭和23年)・桧垣順次(昭和23年)・岡田貢(昭和26年)・清水丈夫(昭和26年)・當間章雄(昭和26年)・原誠(昭和26年)・安野惟夫(昭和26年)・加治和(昭和26年)・野本拓夫(昭和26年)・浜口正俊(昭和26年)・小松康世(昭和29年)・金子実(昭和29年)・佐久間悌(昭和29年)・竹原悟(昭和29年)・松村喜好(昭和29年)・鈴木洋(昭和30年)・武田市太郎(昭和30年)・古川治(昭和30年)・吉田勝郎(昭和30年)・岩井實(昭和30年)・大越輝夫(昭和30年)・高宮敬二(昭和30年)・根本安規(昭和30年)・野本林(昭和30年)・浜本実雄(昭和30年)・熱田進(昭和31年)・木下義博(昭和31年)・黒河忠市(昭和31年)・石井猛(昭和32年)・市来衡平(昭和32年)・蛭原富司也(昭和32年)・佐藤要助(昭和32年)・半沢敏雄(昭和32年)・影山雅英(昭和33年)・高嶋宏昌(昭和33年)・木城茂雄(昭和33年)・平本泰章(昭和33年)・森貞介(昭和33年)・山内進(昭和33年)・会田源吾(昭和34年)・安藤邦郎(昭和34年)・大戸通弘(昭和34年)・高橋恭介(昭和34年)・深津和彦(昭和34年)・伊藤尹一(昭和35年)・山田義彦(昭和35年)・柿崎謙介(昭和35年)・田邊功(昭和36年)・西邦夫(昭和36年)・勝村勇(昭和36年)・黒川静(昭和36年)・田口英明(昭和36年)・道城国生(昭和36年)・河野功(昭和37年)・高橋通彦(昭和37年)・三浦惠寿(昭和37年)・西川四良(昭和37年)・亀岡正(昭和37年)・安達昭三(昭和37年)・水野耕生(昭和38年)・川名諒一(昭和38年)・大竹廉治(昭和39年)・天野高男(昭和39年)・豊田芳州(昭和40年)・原正義(昭和40年)・倉本武夫(昭和40年)・渡会一郎(昭和40年)・村越位光(昭和41年)・菅原大作(昭和41年)・志村暉雄(昭和41年)・堀越仁(昭和41年)・大熊久雄(昭和42年)・丸山良克(昭和42年)・諸岡征之(昭和42年)・板倉昌孝(昭和42年)・大久保孝雄(昭和42年)・炭谷武(昭和42年)・野中通敬(昭和42年)・山田敏雄(昭和42年)・加瀬元礼(昭和42年)・石渡晨作(昭和43年)・桐原有一(昭和43年)・田口慎一(昭和43年)・内田忠伸(昭和43年)・青木隆男(昭和44年)・牧孝(昭和44年)・中島昭博(昭和44年)・加藤勝(昭和46年)・杉本彩二郎(昭和46年)・根岸一男(昭和46年)・森田康義(昭和46年)・伊能喜一(昭和46年)・松浦広(昭和46年)・石田浩男(昭和46年)・原口米夫(昭和46年)・土井建一(昭和46年)・寺沢賢一(昭和47年)・鈴木明(昭和47年)・安藤啓子(昭和47年)・佐藤晴邦(昭和48年)・定田明(昭和48年)・森田章嗣(昭和49年)・伊藤文夫(昭和49年)・相馬太郎(昭和49年)・今井力(昭和50年)・川口匡(昭和51年)・下川原厚男(昭和51年)・緑川文男(昭和51年)・渡辺功典(昭和51年)・金子徹(昭和52年)・村上博高(昭和52年)・清水博(昭和52年)・田林勲(昭和52年)・小田透(昭和53年)・小出哲司(昭和53年)・中村基継(昭和53年)・川島誠(昭和53年)・横田正男(昭和53年)・林俊幸(昭和54年)・福田信(昭和54年)・渡辺幸保(昭和55年)・徳江雅宏(昭和55年)・中村正樹(昭和55年)・鈴木敦(昭和56年)・多田尚弘(昭和56年)・若山裕康(昭和56年)・梨本一昭(昭和56年)・緒方俊文(昭和57年)・土田吉男(昭和58年)・川上晴子(昭和59年)・原幸浩(昭和59年)・宮田弘幸(昭和59年)・西川悟(昭和59年)・中村威(昭和59年)・九門明(昭和59年)・石坂郁夫(昭和60年)・高橋英夫(昭和60年)・熊代耕一(昭和61年)・佐藤昌弘(昭和61年)・小倉正通(昭和61年)・寺西英司(昭和61年)・本間誠(昭和62年)・丸山美恵子(昭和62年)・貞国元志(昭和63年)・佐々木光一(昭和63年)・岩田耕平(昭和63年)・大森雅久(平成1年)・大野幸治(平成2年)・中村幹(平成2年)・李岩(平成2年)・喜多村淳(平成2年)・貫井義昭(平成3年)・松永勉(平成4年)・八木俊治(平成4年)・柳沢栄二(平成4年)・井村敦子(平成4年)・徳留勉(平成4年)・島基之(平成4年)・山本朋子(平成5年)・山口修(平成6年)・白浜三郎(平成6年)・池田俊次(平成8年)・鈴木慎也(平成8年)・西川宏明(平成8年)・宮脇修三(平成8年)・松永直之(平成9年)・西川晶子(平成10年)・今井良枝(平成11年)・菅原勝彦(平成11年)・井上武則(平成12年)・水野達也(平成12年)・横山龍介(平成12年)・渋谷岳人(平成13年)・宮原誠司(平成13年)・川崎敬(平成13年)・若麻績一毅(平成13年)・菊池智博(平成14年)・丸井隆志(平成14年)・和田一高(平成14年)・片倉宙(平成15年)・森本太郎(平成15年)・下岡亮介(平成16年)・寺田敬佑(平成16年)・中里陽一(平成16年)・西山雄気(平成16年)・原普史(平成16年)・本間和幸(平成16年)・安田佑哉(平成16年)・渡邊直孝(平成16年)

敬称略、()は卒業年。

卒業生を励ます会

情報画像工学科画像材料コース・画像システムコースを平成18年3月に卒業する学生を囲み、懇談会を行う予定です。情報画像工学科画像系と画像工学同窓会の共催で、卒業式(学位授与式)の終了後に行います。皆様是非ご参加下さいませようお願い致します。

予定日時：平成18年3月23日(木)午後2時頃
 予定場所：千葉大学学生会館

年会費納入のお願い

会報発行などの同窓会の活動運営は、主に会員の皆様からの年会費でまかなわれております。正会員の皆様には、同封の振込用紙にて年会費(1,000円)を納入下さいませようお願い申し上げます。

なお、情報画像工学科卒業生には、在籍時の所属コースに関係なく、卒業生全員に送付いたしております。年会費の納入にご協力下さいませようお願い申し上げます。